

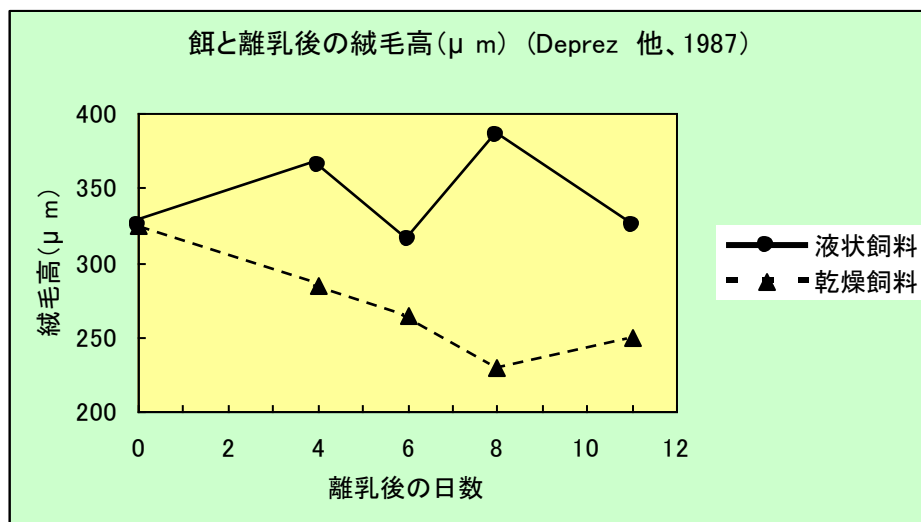
## リキッドフィーディングの良い所

ヨーロッパにならって日本でもリキッドフィーディングの会社が立ち上がりました。身近に食品の副産物が十分に供給され、利用しやすい形で入手できる農場はともかく、消費した残りを豚に加工して餌にするというのは少し筋違いの感があります。エネルギー自給率を上げられそうだと国の補助事業が背中を押しているように見えます。

ヨーロッパは低温乾燥、日本は高温多湿と基本的な環境条件が違う中でどうなるのだろうかというのが率直な意見ではないでしょうか。飼料の管理や原料の調達で問題がなければ可能性はあると思いますが、全国レベルで同じ内容の飼料を使用して同質の豚肉生産をしているグローバルピッグファームのようなグループにとっては地域的なメリットのみで左右されるわけにはいきません。

ただし離乳後のストレスを受け易いこの時期の子豚にとって、液状の飼料がそのストレス緩和に役立つというのは以前から知られており、腸の正常度を測るバロメータとして腸絨毛の長さの研究が多く行われており、消化吸収率などにも関係していると言われています。例えば分娩離乳時の腸絨毛の長さ と 下痢や病原体の関係はよくわかっており、正常 > コクシジウム > 大腸菌 > PED > TGE という順で、絨毛が短くなるほど消化吸収に問題があるというのはよく知られています。

これは正論であり、離乳舎で食い込みを促す際には、GPパウダーや練り餌などの状態で食べ易く、餌や水に慣らすといった管理の意味はここにあります。87年のデータなので当時の離乳日令は正確には不明ですが、仮に3~4週令としてもいきなりマッシュの飼料(乾燥飼料)であれば、食い込み不足から絨毛の短縮が起り、さらに消化吸収を遅らせる要因になるはずで



2008年10月 グローバルピッグファーム(株)